

令和6年度第1回旭区教育会議 会議録

1 開催日時 令和6年12月12日（木） 19時から20時15分まで

2 開催場所 旭区役所3階 第2・3会議室

3 出席者

（委員）

鎌田議長、長谷川副議長、宇田委員、齋藤委員、笹崎委員、宮城委員、吉本委員

（学校）

岡本生江小学校長先生、中山大宮中学校校長先生

（教育委員会事務局）

酒田指導主事、廣山指導主事

（旭区役所）

松原旭区担当教育部長、宮崎旭区教育担当課長、大前総務課長、仙田地域課長、横谷防災安全課長、長谷村窓口サービス課長、戸田保健子育て課長、荻野生活支援課長 他

4 議事

1 開会

2 旭区担当教育部長挨拶

3 議題

区の教育等関係事業について

・令和6年度の取組実績 ほか

4 閉会

5 議事内容

○田窪旭区教育政策課担当係長

ただいまより令和6年度第1回旭区教育会議を開会いたします。本日はご多忙の中、

ご出席いただきありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます教育政策課担当係長の田窪でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、冒頭に申し訳ございません。本日旭区担当教育次長でございます東中に関しまして、急遽なのですけれども議会对応が入りまして、本日やむなく欠席させていただいておりますことをお詫びいたします。それでは会議開催にあたりまして教育担当部長の松原よりご挨拶申し上げます。

○松原旭区担当教育部長

皆様こんばんは。教育担当部長の松原でございます。大変お世話になっております。皆様方におかれましては、本日は夜遅くから教育会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。

それからオブザーバーとして幹事校長先生と指導主事の先生、本当にご出席ありがとうございます。私達は区の子どもたちの健やかな成長のためにということで様々な事業を行っているところでございます。学校教育の何とかお力になりたいということであまり奇をてらったということではないですけれども、できるだけ違う観点からのお支援を行うということで事業を行っております。学校教育に関することであるとか、それから社会教育、生涯学習、生涯スポーツ、福祉の側面からということで何とかして、子どもたちの健全育成に資するよう、それと学校教育のお力になれるように頑張っているところでございます。

本日におきましては、それらの事業につきまして、現時点での各取組状況をご説明させていただきたいと思っております。行政では連続性や継続性が非常に重要になってくるということでございますので来年度の方向性についてもご確認いただきたいと思います。

私達の事業を展開するに当たりまして、普段から地域で子どもを見られている皆様方、本当にありがとうございます。感じられていることをお伝えいただき、私達に対して事業のヒントになるような、今後の展開に資するようなこと、忌憚のないご意見をいただければと考えておりますのでぜひどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございます。

○田窪旭区教育政策課担当係長

まず、当会議は公開としておりまして後日会議録を公開することとしております。そのため、会議を録音させていただいておりますのでマイクを使用してのご発言にご協力をお願いしたいと思います。本日お配りしております資料は次第に記載の通り資料1と2になっております。よろしいでしょうか。本日もご出席いただいている委員の皆様および区役

所側の出席者につきましては名簿および配席図をお配りしておりますので個々のご紹介は省略させていただきます。

その中で令和6年11月15日付で新たにご就任いただいている方がおられますので、ここでお名前をご紹介します。旭区PTA協議会会長が交代となったことに伴いまして、前任の澤田委員に代わりご就任いただいております。宇田委員でございます。

○宇田委員

旭区PTA協議会の会長をさせていただいております宇田です、よろしくお願いたします。学校では古市小学校のPTAの会長をさせていただいております。こうして旭区のPTA会長になるまでは皆さんがこういう活動をされているのも、本当に知らずにおりました。皆様の活動が繋がるのは最終的には地域のためかとは思いますが、本当に児童のために日々ご協力いただき誠にありがとうございます。保護者を代表いたしましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

○田窪旭区教育政策課担当係長

ありがとうございます。それではこれより議題に入らせていただきますけれども、以降の議事進行は鎌田議長にお願いしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○鎌田議長

皆さんこんばんは、鎌田でございます。すみません、座らせていただきます。それでは次第に従って進めさせていただきたいと思っております。議題の区の教育等関係事業について、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

○宮崎旭区教育担当課長

皆さんこんばんは。企画課長兼教育担当課長の宮崎と申します。着座にてご説明申し上げます。お手元、この資料1というA4横版の資料をご参照ください。こちらの順番に沿って上から担当の課長よりご説明を申し上げます。その中で昨年度から文字だけでお伝えするよりも映像を交えての方がわかりやすいかと思い、去年は4番、5番、6番、7番を映像で紹介させていただいたのですけれども、今年は9番の事業を映像でご紹介させていただきたいと思っております。したがって9番は最後にご説明を申し上げるということで順番が変わりますので、あらかじめご承知おきください。それでは私から1番から7番までご説明申し上げます。

まず1、2、3番につきましてご説明します。学力向上の支援という目的で行っております1番につきましては、学力アップアシスト事業ということで小学生を対象に放課

後の空き教室を活用させていただきまして、地域の方々を中心とします指導員の方々に宿題等を見ていただくという事業でございます。実績としましては 10 校中 5 校で現在実施をしております。

2 番の旭ベーシックサポート事業。これは中学生の生徒さんを対象に先ほどの小学生の授業と同じように放課後の空き教室を利用して学習事業を展開しています。こちらの実績は 4 校中 2 校で今実施をされております。

いずれも半分でしか実績が上がっていないということでございますが、こちらにつきましてはコロナを契機としまして人の流れが止まってしまったことで指導員になっていただく方の人材確保の観点で少し課題があるということと大阪市全体で子どもたちの学力を上げようということから大阪市教育委員会直轄で実施されている事業で同種の事業があるということではなかなか実施に至っていない学校があるという現状でございます。

また、最近ある小学校の学校協議会の場にお邪魔させていただいて話を聞いている中で気づいたことなんですけれども、このコロナ禍で一旦この事業が止まったときに校長先生、教頭先生が異動されて事業の引き継ぎ自体が上手くいっていない学校もあるのではないかと先日感じたところもでございます。そういったことで学校の認知不足や我々の周知不足でもあるわけなんですけれども、そういったことに原因があるのではないかとこのように考えております。

区役所としても人材確保の観点では人員募集につきまして、区が提携しております大阪工業大学や大阪市が包括提携を結んでいます大阪公立大学の学生課に人員募集のチラシを配らせていただくなど色々な工夫をさせていただいています。学校におきまして、他の事業とセットで本事業の予算を活用していただいているという例もございます。そういったことで教育委員会から予算を引っ張ってきているんですけれども、引き続き予算確保に向けて取り組んでいるところではございまして学校の活用の好事例なり、あるいは区も一緒にとりようなどところで様々な工夫もしながら来年度も進めてまいりたいというように思っております。

3 番に移ります、民間事業を活用した課外学習ということで民間の塾の会社、イングという会社ですけれどもこちらは中学生を対象として学校において実施をいただいています。これは大阪市の塾代助成がそのまま活用できるという事業になってございます。こちらは中学校 4 校中 4 校で現在実施をしております、年々登録者も増えてきてございます。来年度以降も引き続き続けてまいりたいと考えております。

続いて4番、5番は体力向上の支援ということで事業展開をさせていただいております。運動能力等向上サポート事業ということで、小学生では、専門的な経験、技術を持つ専門家を学校へ派遣させていただき実施をしております。資料に書いています通り、走り方であるとかダンス、水泳、ボール投げというような基礎的な運動能力のヒントを学校の先生の授業とはちょっと違う角度で教えていただき、楽しみながら技術を習得するしというものになっております。今年とはある学校で体力テストの直前に走り方の授業を実施させていただいたところ、学校からタイムが昨年と比べてぐんと上がったという感想もいただいているところでございます。3学期までに10校で実施する予定になっております。

5番目の中学校の運動能力サポート事業ですがこれはダンスの指導に特化をさせていただいております。4校でダンスのインストラクター、セミプロのような活動をされている方に来ていただいて教えていただいております。生徒さんの興味や関心の向上を目的に実施をしております。中学生ならではのグループでの授業で、基礎的な動きをインストラクターから教えてもらい、それらをふまえて、全体構成やフォーメーションなどを自分たちでいろいろ考えて作り上げて発表するという内容です。こちらでも好評いただいております。従いまして、来年度も同様の形で継続してまいりたいと考えております。

続いて6番、7番はICT教育の一環ということで取り組ませていただいております。プログラミング体験学習事業ということで、区内にあります大阪工業大学の先生に、小学校では個別のクラスの授業に入らせていただいてプログラミングの基礎を大学の教授ならではの話し方や角度で授業を実施していただいているものでございます。こちらでも年内中に全10校で実施予定でございます。中学校につきましては、今年度よりちょっと角度を変えて、大学の先生の専門性を生かしたところで特別授業的に実施をしようということになっております。先日、1校、中学校で実施をされましてプログラミングの基礎的な話に加えまして実用化されている商品の紹介や将来の進路に繋がるような話もされていたところでございます。小学校からは好評いただいておりますし、中学校のところは学校ともいろいろ協議を重ねながらご意見も伺いながら継続して進めてまいりたいと思っております。

○戸田旭区役所保健子育て課長

保健子育て課長の戸田と申します。座って説明させていただきます。

まずこの事業の説明をさせていただく前に、今年度の当課の状況をについてお伝えさせていただきます。令和6年4月に児童福祉法の改正に伴いまして、こども家庭センターの設置が努力義務となりまして、旭区におきましても保健子育て課がその機能と役割を果

たすこととなりました。こども家庭センターの内容といたしましてはこれまで母子保健、いわゆる保健師を中心として進められていた子育て世代包括支援センターと児童福祉で進めさせていただいていた子ども家庭総合支援拠点、この双方の機能を引き継ぎながらも全ての妊産婦および子ども子育て世帯を対象とした切れ目のない支援を実施するため、母子保健と児童福祉の支援体制をシームレス化、いわゆる縫い目のない、段差のない状態にしてよりきめ細やかな対応を実施するため相談支援体制を現在整えているところでございます。つきましては、それに合わせまして各事業につきましても若干今後整理をさせていただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。

それでは8番の体験教室についてご説明を申し上げます。体験教室、これは令和3年度からその前身であるいのちの教育プログラム、リアルケアベビーいい体験教室事業として実施させていただいてましたが令和5年度以降中学校からの要請はなく、実施に至っておりません。こうした状況を受けまして今年度からリアルケアベビーだけではなく、当課の保健師、獣医師あるいは薬剤師、栄養士、保健師、保育士などの専門職員が中学校からの要望に応じて命・健康・福祉をテーマとした課外授業を実施する事業といたしまして幅を広げたところではございますが、今年度についても要請は承っていない状況でございます。従いまして令和7年度には当事業につきましては廃止する方向で考えておりますが、今後において学校からの要望があれば当課の専門職による課外授業、いわゆる出張講座としての実施をさせていただく予定であります。私からは以上です。

○荻野旭区役所生活支援課長

生活支援課長荻野でございます。座ってご説明させていただきます。

10番、あさひ育み学び舎事業につきましてです。この事業は、学習環境や生活習慣が十分ではない中高生を対象に、安心できる環境、居場所において知識や生活力を身につけ、自らの選択によって将来を思い描き進路を決定できるよう、相談、学習支援、自立支援を行い、社会的自立を促していくことを目的としております。今年度の登録者数は現在のところ33名です。今年度につきましても学習支援、調理実習など生活力の向上支援の他、地域のご協力を頂戴しまして、職業観を育む取組として、カフェのマスターや大工さんからのお話と体験を実施いたしました。今月はしめ縄リース作りを予定しております。また、今年度から支援会議といたしまして、子どもに関わる機関、大宮中学校および区に配置されていますスクールソーシャルワーカー、子どもサポートネット、子ども自立アシスト、生活保護ケースワーカーなどそれぞれ子どもに関わる機関が参画しまして、毎月支援会議を

開催しております。この支援会議を通して、本事業を必要とする中学生が参加に繋がっていくよう取り組んでおります。

来年度につきましても支援が必要な中高生にあさひ育み学び舎事業を利用してもらえるよう引き続きこの取組を継続してまいりたいと考えております。以上でございます。

○戸田旭区役所保健子育て課長

続きまして 11 番、子ども食堂ネットワーク事業についてご説明をさせていただきます。子ども食堂ネットワーク事業としまして、旭区社会福祉法人と事務局をともにしながら後方支援を行っておるところでございますが主に食材提供の情報共有や行事の周知などを行っているところでございます。また子ども食堂において学習支援を実施する団体には、ボランティア派遣に関する支援や教材の提供などを行っており、学習支援の推進を行っておるところでございます。今年度から子ども食堂だけではなく、子どもの居場所活動を行っている団体についてもその対象とさせていただいているところでございます。

令和 7 年度につきましてもは居場所支援事業とし、子ども食堂ネットワーク会議に限らず、区内の居場所を運営する団体に対する団体への補助や、広く区内の子育て世帯や学校に周知するための広報活動など、事業を拡充させる予定としております。以上です。

○仙田旭区役所地域課長

皆さんこんばんは、地域課長の仙田でございます。どうぞよろしく願いいたします。座って説明させていただきます。

私からは、地域の皆様を対象といたしました 12 番の小学校区教育協議会ーはぐくみネットー、13 番の生涯学習ルーム事業、14 番の学校体育施設開放事業についてご説明をいたします。

まず 12 番の小学校区教育協議会ーはぐくみネットーにつきましてもは、学校・家庭・地域が一体となりまして教育コミュニティづくりを進めるため、学校と地域が連携して事業等の実施をしております。次に 13 番の生涯学習ルーム事業でございますが、小学校の特別教室等を活用して地域の皆様に自主的な文化学習活動の場を提供し、地域のコミュニティづくりを進めていく事業となっております。今月 12 月号の広報あさひにおきましても各校区で行われております講座等を掲載させていただきますのでまたご一読いただければと思っております。また、常日頃からの成果を発表するために 3 月 2 日に区民センターにおきまして生涯学習ルームフェスティバルを開催させていただくことになっておりますので、よろしく願いいたします。

次に 14 番の学校体育施設開放事業です。これは小学校と中学校の体育施設を地域に開放していただき、地域の皆様にスポーツ活動の場を提供し、自主的、主体的に運営や活動の推進を図っていただく事業となっております。おかげさまでコロナ禍を過ぎましていろいろな団体やいろいろな方からお問い合わせをいただいているところでございます。今年度につきましても、各校下の協議会や運営委員会に事業を委託して順調に実施が進められているところでございます。来年度につきましても継続を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。私からは以上でございます。

○戸田旭区役所保健子育て課長

続きまして区シティマネージャー自由経費予算事業について 15 番、子どもサポートネット事業についてご説明を申し上げます。子どもサポートネット事業は小中学校においてスクリーニング、いわゆるチェックシートを通じて浮上してきた福祉的な課題についてスクールソーシャルワーカーおよび子どもサポート推進員が中心となって、区役所と学校が連携をしながら、適切な支援に結びつけることにより、課題の改善、解決を図る事業のことを言います。

現在では定期的にスクールソーシャルワーカーおよび子どもサポート推進員が定期的に学校に伺わせていただいてコミュニケーションを図りながら、福祉課題を有する家庭にアプローチを行っているところでございます。現在小・中学校全 14 校で 48 ケースが抽出されており、その中で 18 ケースの保護者に子どもサポート推進員が繋がっている状況でございます。最近では 2 ケース繋がりましたので合計 20 ケースが今現在繋がっている状況と言えます。今後につきましても、学校との連携を一層強化し取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

○宮崎旭区教育担当課長

私から資料の最後になります、スクールカウンセラー事業についてご説明いたします。こちらの事業も区シティマネージャー事業ということで所管局は子ども青少年局になるんですけども現在、小学校 10 校で 5 名の配置をしていただいております。2 校に 1 名の割合、中学校については 4 校に 4 名、1 校 1 名の割合で配置をされております。年々需要が高まっているというように小・中学校から伺っております、スクールカウンセラーさんがいないときに相談したいというようなどころもたまにあるということで、そういったところは小学校・中学校の配置の枠数をちょっと調整しながら各校で工夫もいただき、今展開しているということでございます。

来年度につきましてもこの形で配置されるというように所管局から聞いておりますが、年々需要が高まっているという現状もございますので区としまして事業充実に向けて要望もしているところでございます。

資料の説明は以上になるんですけども昨年までこの資料の一番下にもう一つ、児童いきいき放課後事業というのがございました。こちらは今年度からは区シティマネージャー事業からこども青少年局の直事業に切り替えております。人材確保の面、あるいは予算調整の面から各区に割り振った中で調整をするのではちょっと無理があるということで全市的なところで調整をした方がスムーズに行くという実態がございまして、それで全市をまとめるという意味で局事業に移して今年度から実施をして、事業の立て直しを図ろうとしているところでございます。とはいえ区との関係が切れたのかということではなくて事実上の報告でありますとか、区の特性を生かしたようなことも関わってくださいということやあるいは地域との連携も忘れないでくださいというような事業者とのやり取りは引き続き区で実施しております。資料には表現ございませんが、説明させていただきました。

それでは飛ばしております9番の事業につきまして画面を使いながらご紹介したいと思います。2つ画面がございますので見やすい方を見ていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

○横谷旭区役所防災安全課長

皆さんこんばんは、防災安全課長の横谷でございます。着座にて説明させていただきます。資料をお配りさせていただいているんですけども、モニターに沿って説明させていただきますのでご覧いただきながらお願いいたします。

旭区防災事業でございます。中学生の防災意識の向上を地域の防災力の向上、さらには担い手の育成というところを目的としまして、防災教育プログラムを実施しているものでございます。令和3年度から行っております。今年度は区内全ての4つの中学校で実施しております。内容としましては大阪公立大学の教授や学生さんなどが教材などを活用して防災に関する授業を実施しています。授業の前後には、保護者と中学生に対してアンケートも実施しております。それでは各学校での実際の様子をご覧いただきます。

まず旭東中学校です。10月4日の5限目、6限目に実施しました。1年生4クラスの方に参加していただきました。内容について5限目ですけども安全な住環境を考えようということで、自宅のレイアウトについて地震の揺れにより家具が転倒しない対策や脱出

を確保するための配置などを考えていただいています。こちらが実際の様子でございます。大阪公立大学の生田教授からの講義、その後生徒の皆さんにはグループで考えていただいて発表もしていただいています。続きまして6限目には非常持ち出し袋を作ろうということで災害発生時に避難所等へ自宅から持っていくものについて、リュックサック一つなりの限られた容量で何を持っていくかを選択していってもらうものです。学生さんから説明をしていただいて、その後グループで考えていただいています。

続きまして今市中学校でございます。先週12月4日に実施いたしました。1年生4クラスに参加していただいています。5限目、6限目ということで5限目、まずは災害から身を守るということで、旭区で災害が発生した場合のリスクを知っていただいて、災害から身を守る対策と備えを学んでいただきました。説明は例えばですけれども旭区にどのようなリスクがあるかというところについて生田教授からの説明や学生さんからの説明がございました。6限目は災害から身近な人の身を守るということで身近な人を助けるために心臓マッサージや実際にAEDを使った救助訓練を実施いたしました。写真の左側が心臓マッサージ、胸骨圧迫の要素です。右側がAEDを使ったり胸骨圧迫をしたりしています。機材は消防局からも借りたりしております。

続きまして大宮中学校でございます。9月11日の5限目、6限目に実施させていただいています。1年生の2クラスに参加していただいております。こちらも旭区における地震災害のリスクを知るというテーマで実施いたしました。5限目の様子です。講義の説明、非常持ち出し袋の話聞いていただいています。6限目はグループでそれぞれ安全な住環境を考えたり、持ち出し袋を作ってみようというところがございます。

続きまして旭陽中学校になります。こちらは10月26日に実施いたしました。1限目に1年生5クラス、2年生5クラス、3年生5クラスで全校生徒に参加していただいております。内容としましては非常持ち出し袋を作ろうという1年生。2年生、3年生は安全な住環境を考えようということで実施しております。全校生徒参加ということでしたので、オンラインで授業を実施しました。左側が先生に説明いただいている様子で、右側が授業の実際を受講していただいている様子でございます。旭陽中学校は1限目講義でしたけれども2限目、3限目は高殿地域の防災リーダー、地域の方に参加いただいたり、旭消防署の方にも来ていただいて防災訓練等を実施しております。1年生、2年生、3年生はそれぞれ1年生は能登半島地震の状況なりクロスロードゲームというものに2年生、3年生は消火体験などの訓練を実施したんですけれども、1年生は能登半島地震の状況を行った際

の画像などを見て学んでいただいて、その後クロスロードゲーム、こちらは阪神大震災時の神戸市職員が体験したインタビューとかを元に二者択一でどちらかを選ぶ。どちら選んでも何らかの犠牲が発生するという事でジレンマを感じながら進めていくゲームでございます。2年生、3年生は消火体験などの防災訓練です。放水訓練、水消火器と煙テント、水バケツリレーといった活動を伴ったものを実施させていただきました。

以上旭区防災教育事業の説明でございます。来年度も引き続き継続して実施してまいりたいと思っております。今回は中学校の授業だったんですけれども、小学生にも災害が起こったときに自分自身の身を守ることができるように適切な行動を学んでいただくことを目的に区内小学校にご協力いただいて授業等で防災に関するプログラムを実施しています。今年度は全ての小学校で防災リーダーをはじめ、地域の方々が参加していただき、状況としては実施もしくは実施予定となっております。説明は以上でございます。ありがとうございました。

○宮崎旭区教育担当課長

区役所からの説明は以上になります。議長よろしく申し上げます。

○鎌田議長

はい、ありがとうございました。ただいまのご説明でご意見、ご質問等があればお受けいたします。なお、必ずお名前を名乗られてからご発言いただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。何かございますでしょうか。今日ご参加されている方々は日頃からそれなりに子どもたちと接してらっしゃる方々ばかりだと思っておりますけれども、ご自分のお立場で何か区役所の方に聞いてみたいとか、何かご質問等あればご意見等、感謝の気持ちと何でもよろしいかと思っておりますので、どうでしょうか。宇田委員どうぞ。

○宇田委員

PTA 協議会の宇田です。日頃よりいつもいろいろとありがとうございます。今の防災の話についてなんですけれども、今小学校と中学校と別々にされているかと思うんですけれども、もし災害が起きて、避難所となったときに各小学校の体育館とかやっぱり各校区内の被災避難所がベースになると思うんです。その中で中学校と小学校を共同で、中学生も一旦校下に戻ってする避難訓練の予定はないんでしょうか。必要ではないのかというところで必要かなと私は思っていて、その辺も視野に入っているんでしょうか。

○横谷旭区役所防災安全課長

すみません、防災安全課長の横谷でございます。実際旭区の場合、10 地域でそれぞれ

地域の一体型訓練をやっています、基本、小学校校区ごとで実施しています、そこに我々も支援なりをしていくということで、地域の方主導でやっていただいている状況でございます。中学校なり小学校なりそれぞれ避難所があるんですけども、そこを宇田委員がおっしゃっているように中学生が住んでいるところに応じて、小学校地域に行く中学校でいくっていうようなところまではまだ実際のところそこまで推し進めてやれている状況ではないというのは実情でして、やはりまずは運営方針等でも掲げていますように 10 地域全ての地域で訓練をまずやっていく、その中で濃淡はやはりあつたりもしますのでそこをまず展開していくっていうところを今目標にはやっているところです。ちょっとご意見等も参考にしながら、地域との話もしながらやっていけたらと思っているところです。

○宇田委員

すみません、ありがとうございます。近所のうちで言うと古市の防災訓練に参加するとやっぱり年配の方が多く、実際年配の方でその運営ができるのかなと思ひまして。実際 4 階にいろいろと学校のところに避難の要は食料とか、そういうものが実際備蓄されているかと思うんですけども、それをおろすのに、やっぱり一旦本当に何か起きたときにはそういった中学生もしくは高校生の力とおそらく必要なかなとちょっと勝手に思っていて、それを繋げてまた視野に入れていただけたらと思ひますので、ありがとうございます。

○横谷旭区役所防災安全課長

ありがとうございます。参考にさせていただいて実際直近の地域の訓練とかでしたら約 6 割強が 60 歳以上っていうアンケートの結果もあつたりもしますのでそこは実際問題認識はしています。やはり幅広い年齢層の方々参加していただけるように日頃の周知なり学校での事業を変えさせていただいたりして、そこは浸透していくように努めていきますので引き続き頑張りたいと思ひます。

○鎌田議長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。他にどうですか。斎藤委員どうでしょうか。

○斎藤委員

旭区民生委員協議会の斎藤です。前年度のときの教育会議であさひ育み学び舎事業で発達障がいとか障がいがあるお子さんが増えてきて、その対応にちょっと苦慮していたところを申し上げたところ研修をしてくださいまして、発達障害の子どものこととかいろいろ教えていただいたり他のところへ個人的に行ったり勉強したり、いろいろ調べた

りも昔のなられたことを思い出したりしていたんですが、結局そういう子どもが今 3 年生で、もう 3 年になるんですけどもやっぱり信頼関係だったということがやっとわかったんです。発達障がいろいろな種類の状況がありますがけれども信頼関係が一番で、やっぱりもうどうしようとかと心が折れそうになった子どももいたんですけどもこの頃は心を開いた言葉とか修学旅行に行ったらお土産を持って来てくれたりふっと通じてるなというところがその日によって気分的にいろいろなお子さんいますけど、信頼関係が一番だなということが、勉強させられたなと思っています。ですから今、徐々にコロナが終わって徐々に健常のお子さんが増えてきましたけど、障がいがあるお子さんも一緒にやっていけるかなとだんだん思ってきたところですよ。ありがとうございます。

○鎌田議長

ありがとうございます。中学生とよく接してらっしゃる笹寄さんはどうですか。

○笹寄委員

すみません、笹寄です。青少年指導員をさせていただいております。僕はこの事業の中で一つ旭区の防災教育事業の方に参加させていただきました。僕が参加させていただいたのは旭陽中学校の防災リーダーとしてこの日は参加させていただきました、中学生の子たちとバケツリレーを担当いたしました、最初はちょっと真剣に会って話をさせてもらって、その後楽しませるという形でやらせてもらったんですけども、先ほどの宇田委員からもあったように防災訓練自体は確かにかなり必要になってくると思います。

今後確実に来るものであると思っていますので。ただ各校下の中で各地域、地区の中で避難所開設訓練というのを行われていると僕は思っているんですけども、その各避難所開設訓練でこんな言い方したら申し訳ないですがその格差ですよ。要はレベルの違いが統一されたときに初めて中学生・小学生が参加できる避難所開設訓練というのもできるのかというのはやはり思います。

僕は高殿出身なんですけれども確かに今の僕らがやっている高殿の避難所開設訓練に中学生が参加するのはいいことだと思います。実際動いてもらうのは小学校高学年から中学生で、今やっている開設訓練の中で、実際訓練している人たちは指示役になるだけだと僕は感じていますので、やはり今後そういう事業を進めていくのは大変必要かなと思います。災害時何をすればいいのかは多分 1 回参加すればわかると思うのでよろしくお願ひします。

○鎌田議長

続きまして宮城委員どうぞ。

○宮城委員

大宮西小学校区ではぐくみみネットのコーディネーターをさせていただいております宮城と申します。以前は8年間ほど青少年指導員もやっておりました。日頃から皆様のご尽力で旭区の子どもたちがすくすくと育っていると感謝しております。本当にいつもありがとうございます。質問とかではなく私の思いなんですけれども、今は学校選択制で学校を選べることにより、生徒の人数だったり格差が出てきたりなどがあるかなと思うんですけれども、こういういろんな事業、活動していただいて上が伸びるのはもちろんだけれども、底を上げていただいて、もう旭区に住んでいる全ての子どもたちが同じように豊かな成長をしていけるようにというのがもう願いです。家庭環境もいろいろあったりですとか、先ほどおっしゃられた発達障がいのお子さんもたくさんいらっしゃったりいろいろあるとは思いますが、全ての子どもたちが本当に旭区で育って健康で成長をしてもらえたらなというのが思いです。特に質問ではないんですが、それを切に願っております。いつもありがとうございます。

○鎌田議長

ありがとうございました。吉本委員どうぞ。

○吉本委員

生江の吉本です。今の話の関連になるかもわかりませんが議題に載ってない話で生江小学校の全校児童数が少ないということで、もういつどこかの学校と、噂では城北小学校さんと何十年か前から統合になるのではないかという話もあったんですけれども、今も選択制になってから、もう生江小の児童数は徐々には減ってきている状態なんです。先生方も努力して児童を集めようと、入学してもらおうと努力していると思います。もう小学校も大宮中さんも一緒なんですけれど。それで、僕が一番危惧しているのは生江小学校自体が今後どのようなようになっていくのか。はっきり統合がないのであれば、学校側ももう統合はありませんよというか、ぜひ来てくださいと言えるんですけどどうでしょうか。ちょっとこの会議の話とは違うんですけれど。

○宮崎旭区教育担当課長

はい。現時点で統廃合というような考えはありません。ただ、大阪市の中で適正配置について文科省が小中学校に対しては12学級から18学級の間を標準とし、12学級から30学級までが小中学校としての適正規模だと定めています。大阪市の場合は12学級から

24 学級の間を適正規模として、それを下回る場合、あるいは上回る場合は、適正な規模にするために統廃合も含めて考えなければならないという条例がございます。ですので、それに向けて検討しなさいということになっているのは事実です。生江小学校をとってみますと少なくなっている事実ですが、一方で先ほど来から防災の話も出ていますけども、学校が地域の防災の拠点になっているのも事実でありますし、小学校区が連合町会の単位にもなっているのも事実であります。

また生江小学校校下で今年の春に大阪市の私有していましたが売却をされまして、大手マンションデベロッパーさんが購入されまして、200 戸近いマンションが建つのではないかということも言われています。さらに今回売却された土地の横に同規模の土地もありまして、そちらも大阪市の方針では近いうちに売却予定というようになっています。ですので、校下の子どもが増える状況も十分に考えられるということになります。こ

ういった地域のことや、児童数の変動の動向なども踏まえて慎重に考えなければならないことと思っています。先ほども申し上げましたように条例で定められていますので、考えないといけないことが課せられているんですけども、今のところは区役所内部で情報共有をしながら動向を注視しているという状態でございます。

ですので、今後統廃合に向けて進めていくという方針は現時点においてございません。ですのでどんどん来てくださいという募集は、地域を挙げてやっていただくありがたいというように考えております。区役所も区の広報紙において生江小学校の特集記事を紹介させていただきまして、また同じ校下の大宮中学校の紹介もしております、注目を集めたいと考えております。一緒に頑張らせていただこうと思っておりますのでよろしくお願い致します。

○鎌田議長

吉本さん、安心しましたでしょうか。大切なことだと思います。それでは長谷川副議長よろしく願いいたします。

○長谷川副議長

私、高殿校下で民生委員をしています長谷川です。3つぐらい聞きたいのですが、まずスクールカウンセラーについて、この前ある校長先生と話しているときに、非常に不登校の生徒が増えてきて苦勞されていますと、不登校になるとここに書いてあるカウンセラーの先生もおられるんですけども、それにプラスで校長先生なり教頭先生や教員の方もだいぶ力入れられておられるみたいです。ここに書いてあるこれはいじめとか不登

校の未然防止は当然してもらわないといけないですけども、もしなったときの後のフォローを区役所さんと学校で連携して不登校の生徒を減らしていくようにちょっとお願いしたいです。

具体的には1クラスに1人か2人は不登校の子がいるというようなことを校長先生がちょっとおっしゃってしまっていて、大体1年間で復帰してこられる人が3人から4人ぐらいが学校へ来て違う教室でというようなお話されてましてですね。なかなか不登校の子を戻すのは非常に大変だというお話を聞きました。このまま頑張っていたきたいなというのが1点。

あとは、私は防災リーダーの隊長をやっております、これは高殿の自慢ではないんですけども高殿は先ほど言った開設訓練を7、8回ずっとやっております。来年の2月にまた開設訓練をやる予定しております、今回はちょっとメンバーの役割を変えて、今まで自分のしていた担当以外のところをして幅広く、いざ南海トラフがおきたときに、私らも当然高齢になってきて動きの方は鈍くなってきますけれども頭は使えるのかと思って、そういう指示ができるように防災リーダーの方にもお願いはしているところです。

ただ自分で動けなくても若い子がもし避難してきたときにはこういう指示をして動いていただけるようにと思っています。能登の話を書きますとやはりトイレが詰まってその清掃が非常に大変だというお話を聞いております。その辺りは能登の人に聞いたら、中学生とか高校生が進んで掃除などを行っている映像を見たらさすがだと思いました。高殿はそういうような生徒を育てていきたいなというように思います。

先ほどもあったように小学生が中学生と一緒に避難所開設をやってみたいなというように思います。もし高殿小学校が満杯になれば、隣の旭高校、旭陽中学校でも避難所を開設できるような準備はしているところでございます。

あとお聞きしたいのは1番、2番のところでは人材の確保に苦労されているというようなお話があります。この辺りでは人材を確保するためにはどうしていけばいいか区役所さんで対応策をお持ちなのか。人をなかなか発掘か見つけていくのが非常にしんどいとか、当然リタイアした方がおられますけれども、その人に授業を教えてほしいといってもそんな若い人には教えられない人もいると思うし時間はあっても無理だということも考えられます。

中堅職員、中堅の人を探していかないかいいけないと思いますしそれをどうして探していくかというのはまた一つの課題にはなってくると思いますのでちょっと区役所の方

で対応策をまた練っていただきたいと思っております。以上でございます。

○宮崎旭区教育担当課長

スクールカウンセラーに関わって、不登校が増えているということで未然防止もそうなんだけれども、なってしまったらの対応もというお話だったと思います。スクールカウンセラーの活動自体も不登校気味という段階の相談も受けていただいておりますし、そういったところもありスクールカウンセラーの需要が高まっている実情というのが表れているのだと思っております。引き続きそういった職員が充実して配置できるように、局にも求めたいと思っておりますし、先にご説明しましたこどもサポートネット事業が、学校でちょっと気になるなという子に対して、福祉的なアプローチができないだろうか、それによって問題解決に糸口を繋げないだろうかというような事業でございますので、その辺りもいろいろ活用しながら不登校という事象に対して重層的に取り組んでいくことも重要と思っております。区役所内の連携もとりながら、学校とともに取組を進めたいと思っております。

それから学力アップアシスト事業やベーシックサポート事業の人材確保の点で「区役所としての策を練るように」とのご意見をいただきました。なかなか有効な策を持ち得ていない現状でして難しいところでございますが、先の説明でも触れましたが、まずはしっかりと周知をすることがやはり大事だと思っております。一旦現役から退かれた方でも、教員免許を持っていらっしゃる方もいると思っておりますし、そういう方に人材を募集しているという情報がしっかりと届くように広報の仕方などもしっかりと考えたいと思っております。

○横谷旭区役所防災安全課長

防災安全課長の横谷でございます。高殿地域はもう過去何年か避難所開設訓練、旭区としてもなるべくいろんな関係機関なりと行っていきたいという地域もあるんですけども初めて地域一体型訓練久しぶりに会ったってというような地域もあつたりもします。やはりまずは避難所開設訓練ができるような体制に旭区として平準化していくようなこともめざしつつ、訓練を続けていっていただくということがやはり大事だと思っております。訓練やっているよう毎年やっているよ、行ってみようというような、そういう動機付けにもなっていくと思っております。

だから訓練を続けていくっていうところは旭区役所としても、どういう訓練をしているといいかというのは職員共々、防災安全課が頑張っ知恵を出して支援してやっていきたいと思っております。もう一つはやはり学校で、小学校、中学校での授業があったことを家に帰って話題にさせていただくということでもいいのかなというのを願ひ

ながらやらせていただいています。その中でやはり保護者の方っていうところも巻き込んでいって、生徒さん、保護者さんのそういうところを毎年毎年動機付けをしていって浸透させていきたいと思いつつ、やはりこういう防災リーダーにわれこそはという方いてくれたらいいんですけども地道なところからやっていっているっていうところが現状です。

人材育成の担い手の育成というようなことも今のところはちょっと注視しながらやらせていただいているところです。やはり幅広い年齢層に声をかけていくようにもしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○鎌田議長

ありがとうございました。学力アップアシスト事業の人材確保で将来教員になりたい大学生や、もしくはもっと下げて高校生あたりに声をかけるというのはどうなのかと今頭の中で考えていたんですけども、それはよくないことなんでしょうか。

○宮崎旭区教育担当課長

将来教員を目指しているということだと思いますと、本市の教員採用試験において加点制度がありまして、本事業のようなことやボランティアなどの活動をしているという実績があれば試験結果に加点されるというものです。学力アップアシスト事業や中学校の旭ベーシックサポート事業もこの制度に登録をしていますので、大学生で教員課程をとっているような学生さんがこれに参加してくれると大阪市の教員採用試験を受ける場合はちょっと加点があると、こういったこともきっちり周知しなければと改めて思っているところでもございますので、きっちりやっていきたいと思えます。

それから、高校生を講師にというご意見もいただきました。これはなかなか難しいのが現実かなとは思いますが、様々な可能性の一案として受け止めさせていただきます。

○齋藤委員

齋藤です。あさひ育み学び舎事業はそういう大学生の方がたくさん来られて、30時間ぐらい一生懸命時間を数えながらやって前年度中にしないといけないので、それで結構入ってきてくれてもう既に通っている子もいますし、増えてきて学生さんが増えてよかったなとは思っています。

実習のときはみんなお休みになってそのときは人材不足で困ることもあるんですけども、生徒さんも若いお兄さん、お姉さんがいると喜ぶますしそういう点ではよかったかなと思います。だから周知を大学の方でやってくれているところはそれで一生懸命来てく

れるので、めったに来られたことない大学生も来てくれたりするので教育大関係はもうご存知だと思えるんですけど、他の大学からはまだまだちょっと足りないかなというのはあります。

ちょっと別の話で生涯学習ルームについてなんですけども、私は推進員でないんですけど、委員さんがいないからサポートしているんですけども、広報あさひに秋に乗りますでしょう。秋に載って入りたいと言われても3月に発表会あるので展示する種類のものだったらいんですけれど例えば音楽などは、秋に入って3月は無理なんです。

春頃に紹介していただけたら、春からしても3月に間に合うという、大宮の場合は小学生も入ってくることがあるので、大人と一緒に。そうしたら春頃に言っていただいたら間に合うなというのがあってちょっとお断り秋だと入りたい人もお断りすることがあるのでその時期を変えてもらえたらというのが希望なんですけれど、よろしくお願いします。

○仙田旭区役所地域課長

地域課仙田です。また検討させていただきます。結構お問い合わせいただくんですけども、満員で入れないというのが結構あるみたいなので秋を春に変更できないか検討させていただきます。

○鎌田議長

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。私から一言ご返答はいらないですけど、今日皆様のご意見をいただいた中で、やはり共通して言えるのが学校選択制がすごい問題だと思います。これに関しては今更どうすることもできないのはわかっているんですけども区役所として、どう思ってるのかというのをまた今後聞かせていただいたらありがたいと思います。それでは皆さんよろしいでしょうか。

以上予定されていましたが議題は終了いたしましたけれども本日、小学校、中学校から幹事校長先生、そして指導部からも指導主事の先生方にお越しいただいておりますので、せっかくですので何か一つでもご発言いただけたらよろしいかと思います。はじめに岡本校長先生、お願いいたします。

○岡本生江小学校長

こんばんは、生江小学校の岡本です。いつも皆様には子どもたちへのご支援、ご協力いただきありがとうございます。今いろいろお話を聞かせていただいた中で、やはり学校選択制があるということで防災訓練、学校でもし何か起こったときはその学校で訓練をしているので対応はできるかなとは思いますが、例えば学校がないときに何か大きな

災害が起こったときはやはり地域の学校に子どもたちは来ると思うんです。でも地域から本校に来ているのはおそらく3分の1ぐらいで3分の2の子どもたちはどこに避難するのかといわれると多分本校に避難してくるのではないかと思うんですけれど、そのときに生江小学校に入ったことのない子が果たしてちゃんと避難できるのかという心配はあります。

こういう防災の訓練は学校という場所ではやるんですけれど、やっぱり地域を挙げて生江じゃなくて城北だとか高殿とか大宮とかいろんな学校に行っているうちの地域の子たちが生江小に来て、防災訓練をするのが一番ベターなのかなということはこの会話を聞かせていただいてちょっと思いました。いろいろ本校も活用させていただいているんですけれどもプログラミング学習であったりとか運動能力サポート事業であったりとか非常に子どもたちは喜んでやっています。

小学校は今、国でも専科指導というので小学校は今まで担任の先生が全部教えていたんですけれど、いろいろな教科を専科で違う先生で教えていったらいいんじゃないか中学校みたいに教えていったらいいんじゃないかというようにやっているんですけれどやっぱり小学校はほとんどの授業を担任の先生が行っていると、こういうふうな運動能力サポート事業とかプログラミングの学習で専門家の方が来ていただいて担任の先生以外の人に来てもらって指導していただくというのは非常に子どもたちも刺激になって非常に喜んでいきます。また引き続きまたこういう事業を来年度もうちも取り入れながらやっていきたいと思しますのでまたご協力よろしくをお願いします。

○鎌田議長

ありがとうございました。それでは中山校長先生お願いいたします。

○中山大宮中学校長

失礼いたします。大宮中学校の中山でございます。いつも本当に学校教育の様々な教育活動を支えていただきましてありがとうございます。先日も区長様に学校お越しいただきまして小1時間ほど喋っていただきまして、こんなことをしたいというような話をしたらもう即リアクションをしていただいたということもありまして本当に身近なところでいろいろ学校のために動いていただいていると本当に感謝しております、ありがとうございます。また今後ともぜひよろしくをお願いいたします。

私は横に座っていらっしゃる教育委員会の皆様と一緒に教育委員会でキャリア教育推進チームというチームに所属させていただきまして、いろいろ検討事項をさせていただいているんですけれども、要は社会に出てから自立して活躍できる子どもたちを育成するため

のキャリア教育というものがあまして実際にどんな実践があるのかなということいろいろと協議をしているんですけども、いわゆる特別なことをしなくとも日常行為でここまでやってきている学校の教育活動でしっかりねらいとか意味づけをしっかりとしていくことでそれは可能なんじゃないかという話を実はしているんです。

今、私も学校で皆に言っているのは、日々の授業を大事にしよう子どもにも大人にも言っています。だから子どもたちの学力をつけるのは放課後の学習でなくて日々の学校だということで私は英語科なんですけどもやはり英語科の授業で勝負しないとだめだと思っているんです。そのために余計な仕事を減らそうということを今言っているんです。余計な仕事というのは小さなうちは生徒や保護者との信頼関係で未然に防げるけれどもそれが大きくなったら余計な仕事が出てくるんです。そういうことが起こらないようにして自分が勝負をしないといけない教科でしっかり勝負できるように頑張っていきたいと思いますというように話をしているところなんです。

全然話は変わるんですけども、ロータリークラブの方にお越しいただいて職業講話をしていただけるというようなことで、これも区で毎月校長会をやっているんですけどもその中でご紹介していただいた内容で今度ちょっと活用させていただきまして明日職業講話を1年生でするんです。これもやっぱりやるだけじゃなくって、事前にちゃんと学習して、それやって授業後もちゃんとやって、次の活動に繋げていかないといけないというようなこともあるのでそういう意味では本当に必要な学習というのを子どもたちに系統立ててでさせていく中で、社会で活躍できる人材を育成していきたいなというように思っております。そのためにまたいろいろなことを区役所の皆さんにもいろいろお話をさせていただけたらなというように思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今ふと思ったんですけど、子どもたちの学びのことばかり話しているので今度は一度我々の働き方改革の話もしてみたいです。あまりこんな話をしていないなとふと思ったので、また今後ぜひよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

○鎌田議長

ありがとうございました。それでは小学校担当の酒田指導主事からお願いいたします。

○酒田指導主事

皆さん失礼いたします。初めまして、大阪市教育委員会指導部この第2ブロック旭区の小学校を担当させていただいております酒田と申します。

本日は本当にこのような形で今回参加させていただきましてありがとうございます。私も4月からこちら教育委員会の方に行きまして旭区の小学校をいろいろ回らせていただいたんですけども本当にその中で感じていますことが子どもたちは本当にいい意味で昔ながらで素直な子たちが多いなというのを感じております。

3月までは小学校の教頭をしていたんですけども、やはりそのときもずっと感じていたのがこの学校の中で子どもたちの教育をしていくんですけども、やはり学校の中だけで完結できるものでは絶対ないんです。それは今区役所からもいろいろな事業を紹介いただきましたし、何よりこの地域との関わりという部分で、我々教職員というのはどうしても勤務をしている立場なので数年したら入れ替わりが起こります。今、各校長先生方をはじめ、すごく教職員の皆さんは頑張っていて子どもたちに力を尽くしていただいているんですけどもやはりその先生方も何年かしたらガラッと変わってしまうんです。その中で先生が変わったから子どもたちをしっかりと教育できなくなったとなるのは絶対良くないので、そこで地域の方々が子どもたちをずっと見ていただき、学校と連携して見守っていただくというのがたとえ先生が入れ替わっても子どもたちがその地域の中で健やかに成長していくためにはすごく大事なポイントだと思っています。

先ほどもいろいろなところで人材確保という課題が出ていたと思うんですけども、きっと今地域の例えば行事をしたりとかイベント、旭区のお祭りであったりとかいろいろなものに取り組んでいただいていると思うんですけども、そういったところに今子どものときから参加している子たちはきっとその子たちが大きくなってそういうところに割と出ていってくれる大人に育っていくのではないかというように思っています。

あとは地域で育てていくということが本当に今、小学校、中学校で過ごしている子どもたちだけではなくて、これが何十年した後のこの旭区をまた担っていく人材の育成というところで、そこは本当に学校だけでできることではないというのも本当に常々感じておりますので、そういう意味でもまたこういった形で本当に区役所様、地域の皆様、また我々教育委員会や学校の先生方と一緒にこの旭区の子どもたち、また先の将来のために何かできることということでこういった形でお時間とっていただけたこと本当にありがたいと思っておりますので、また引き続きこの旭区の教育にお力添えいただけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございます。

○鎌田議長

ありがとうございます。それでは最後ですけども廣山指導主事よろしく願いいたし

ます。

○廣山指導主事

着座にて失礼します。大阪市教育委員会の第2教育ブロック旭区の中学校を担当させていただいております廣山と申します。本日は大変貴重な場に参加させていただきましてありがとうございました。また平素より旭区の子どもたちの健全育成のためにご尽力賜りまして誠にありがとうございます。

いろいろと今お話がありましたところで言いますと先日なんですけれども、大阪市立学校における暴力行為、あるいはいじめの認知、不登校数の公表がありました。令和3年から令和5年の集計となっているんですが、いずれにしましても児童生徒数は減少しているものの、どの項目も比率は令和3年から比較するとやはり上がっているというところの結果も出ております。今お話を聞かせていただく中でやはり子どもたちを取り巻く課題と申しますかもう本当に様々な課題を抱えている子どもたちが多いいろいろな角度からのアプローチをすごくしていただいているということを実感しました。

また地域の皆様に支えられて、そして区役所の方々のお取組もあり本市としまして、またさらに連携を深めながら子どもたちの健全育成のために努めてまいりたいと思いますので、どうぞ今後とも引き続きどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○鎌田議長

ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返ししたいと思いますのでよろしく願いいたします。

○田窪旭区教育政策課担当係長

ありがとうございます。鎌田議長進行ありがとうございました。長谷川副議長をはじめ委員の皆様、皆様ありがとうございました。本日の会議は以上となりますけれども、会議の終了にあたりまして旭区教育担当部長よりご挨拶申し上げます。

○松原旭区担当教育部長

何回もすみません。本当に真摯なご意見本当にありがとうございます。先ほどいろいろお話がありました中でやはり選択制の問題というのは非常に大きなウエイトを占めていると申しますか、課題になっているというように感じられているということは重々承知をしておるところでございます。先ほど宮崎課長が申し上げましたとおり今すぐ何か動くということではございませんけれども、それほどの学校も一緒でございます動向を注視する

という段階でございます。ただ本当に学校は地域のシンボルと言いますか、象徴として小学校、中学校がありますので簡単に取って付けるものでもない認識をしているところがございます。

そこはしっかり地域の方々、それから学校と連携をしながらどうあるべきかということをしっかり議論しながら進めていきたいと思っておりますので何かこちらで強引に進めるということはございませんのでご安心いただければというように思っておるところでございます。学校は本当に子どもたちには様々な課題があるというお話をいただいたところがございます。

先ほど宮城委員からもありましたけども全ての子どもが豊かな成長するという、本当にこれが私達の願いでございます。学校が落ち着いていて時間通りに授業が始まって、時間通りに終わってしっかり子どもが授業を聞くと。その中で地域に帰ったら地域の楽しみがある、休みの日には地域でお祭りもあってそこにはいろいろな子どもたちが参加すると。地域で子どもたちが守られている、育っているというようなことを実感できれば非常にいいのかと思っております。学校様と地域の方としっかり連携してお話をしながら進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

そのためにも貴重なご意見を今日の場合は今日の場合ですけれども何かありましたら、ぜひご意見いただきまして今後の事業に活かしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。本日は本当にありがとうございました。

○田窪旭区教育政策課担当係長

それではこれもちまして、本日の第1回教育会議を終了させていただきますお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。